

# ばらんす

JUN. 1999 6 BALANCE

特集:大人でもできる「歯列矯正」とは

検証!生活習慣病  
5年で15キロ太ったカイチュウ先生の虫の居どころ  
笑うカイチュウ

大阪肛門病院では、玄関口に、院長のほかに女医も診察すること、女性診察日があることを掲げていらっしゃいます。

**女性の肛門専門医は珍しいのでしょうか?**

「全国でもおそらく十数人と少ないですね。痔には、神秘的、人に言えない病気」という固定観念があります。とくに女性は年齢を問わず、恥ずかしさからか、痔の症状が悪化し、痛くて我慢できなくなつて、受診される方が多いんです。

また、誤った自己診断により痔だと思いつくり、男性医師にお尻を見せるのが恥ずかしいという理由で、長い間、市販薬を使って痛みを我慢していた高齢の女性の方を診察してみたら、痔ではなく、ガンだったということもあります。このようなケースを減らせれば、早く、

期受診の手がかりになれば、と、女性医師が診察することをアピールしています。

**痛みなどに耐えられなくなる前に受診すれば、簡単に治るのでしょうか?**

「早い時期ならほとんど手術せずに治療できる病気なので、症状があれば、肛門専門医にかかるべきです。痔は何も特別な病気ではなく、カゼと同じくらいありふれた病気であることを知つてもらいたくて、インターネットにホームページを開設したり、『院だより』を発行して患者さんの質問に答えるなど、情報提供に努めています」

**痔にはいろいろ種類があることを知らぬ人が多いとか?。**

痔核(いぼ痔)、裂肛(切れ痔)、痔ろう(あな痔)の三種類に分けられ、原因も

症状もそれぞれ違います。いぼ痔は、便秘やトイレで長時間いきむ人に多いです。お産も原因になります。強くいきむと、肛門の血管の中にたくさんの血液が流れ込み、このような状態が慢性になります。痔核ができます。これが痔核と呼ばれています。切れ痔は硬い便が出るときに、肛門が切れてしまうことにより起こるので、便秘が原因のこと�이ります。ゆるい便が、肛門と直腸の境目のくぼみに侵入し、便の中の細菌に感染して炎症を起こします。痛み、発熱とともに、お尻のそばの皮膚がブツブツと腫れて、膿が出るのが特徴です」

# ばらんす 1999年6月

Hello

Doctor

## 痔 はごくありふれた病気 「痔主」は恥ずかしがらずに 受診しよう

日本人の半分以上が「痔主」と言われているにもかかわらず、だれにも相談できず一人で悩んだり、手術は痛いのではと受診をためらわせる独特の雰囲気が、痔にはあるようです。そんな、痔の持つ暗いイメージを払いのけ、気軽に受診できるよう患者さんに情報を提供し、「痛くない治療」に努力している肛門専門の女医、佐々木先生にお話を伺いました。

### 痔は便と関係が深いのですね。

「正しい排便習慣を身につける、食生活を見直すなどで、かなり予防できます。また便は正常でも、腹圧のかかるような力仕事をされていたら、立ちっぱなし、座りっぱなし、などすると、お尻に負担がかかり痔になりやすいですが、少し歩いたり、動いたりするだけで、うつ血がとれます。このように、痔は、生活習慣とかかわりあうので、生活習慣病とも言われます」

### ところで、痔の手術は跳び上がるほど痛いと聞きますが…。

「現在は手術方法も進歩していますし、麻酔をしますので、手術中は痛みを感じることはあります。当院では、手術終了時に一週間くらい持続する特殊な痛み止めを注射する、傷口を縮小させ痛みを抑えるソフトレーザーを当てる、先制鎮痛と言つて、手術当日だけ痛み出す前

に痛み止めを投与するなどの処置で、約一週間の入院中、ほとんどの方が痛み止めを飲んでいません。患者さんも「痛くなかった。こんなに楽ならもっと早く手術を受ければよかったです」と言われています」

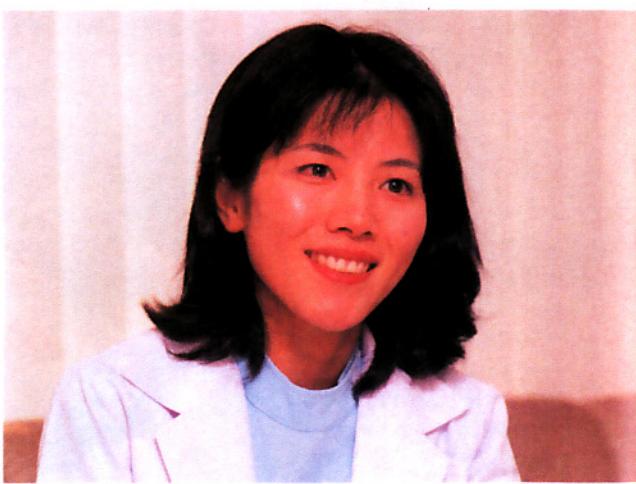
大阪肛門病院は自費診療で、受付には、健康保険が使えない理由を書いたチラシが置いてありますね。

「痔の保険診療点数は非常に低く設定してあり、肛門だけに専念していると病院の経営が成り立たないんです。痔は生命に別条のない病気なので、簡単な疾患と思われているからですが、『診療手術ができる』ことと『痛みを少なくきれいに治すこと』には大きな違いがあります。健康保険では使えない特殊な治療法や痛み止めは、患者さんの苦痛を少なくしますし、症状・治療法などをしていねいに説明し、治療に専念してもらうために、

当院では自費診療とさせていただいてます」

### 最後に先生の健康法を教えて下さい。

「よく食べよく眠る、に尽きます。診察・手術、家事・育児と、忙しい毎日ですが、健康でストレスを感じないのは、仕事が楽しいからでしょうね。小さくてアットホームな病院なので、患者さんからすぐに対応が返ってきますから、本当に頑張りがいがあります」



大阪肛門病院  
佐々木みのり先生

●ささき・みのり  
1967年兵庫県生まれ。大阪医科大学卒業後、大阪大学医学部皮膚科学教室に入局。大手前病院皮膚科、東京女子医科大学附属第二病院皮膚科を経て、大阪肛門病院に勤務。月・水・土曜日の診察を担当。

●大阪肛門病院  
〒540-0035 大阪市中央区釣鐘町2-1-15  
☎ 06-6941-0919  
<http://www2s.biglobe.ne.jp/~okhospi/index.htm>  
○土曜日の午後1時半～3時半は女性のみを診察。  
○初診7,000円、標準的な入院手術費用は200,000～350,000円。  
手術内容・入院期間により費用は違いますので、詳しいことはお問い合わせ下さい。